

**授業概要**

16世紀半ばから17世紀初頭にかけてイングランドで活躍した劇作家ウィリアム・シェイクスピアの『マクベス』を翻訳と原典を用いて読む。魔女の「曖昧な言葉」に操られるかのように悲劇への道を進む主人公を描く作品である。演劇作品を読む際に必要な基本的知識を身につけ、「ことば」の持つ可能性に注目し、かつ想像力の限りを駆使して、一言一句をゆるがせにしない読みと解釈ができるように指導する。  
秋期の英語圏文学特論（古典）につながる科目である。

**授業計画**

第1回	オリエンテーション エリザベス朝演劇とシェイクスピアについて
第2回	第一場（1） 魔女のレトリックと秩序の崩壊
第3回	第一場（2） マクベスの人物像（魔女との邂逅前）
第4回	第一場（3） 魔女の予言とマクベス夫妻
第5回	第二場（1） マクベスの人物像（ダンカン殺害前）
第6回	第二場（2） マクベスの人物像（ダンカン殺害後）
第7回	第二場（3） 人間界と自然界の相関
第8回	第三幕（1） マクベスの人物像（バンクォー殺害）
第9回	第三幕（2） バンクォーの亡霊
第10回	第四幕（1） 亡霊たちの予言
第11回	第四幕（2） マクベスの人物像（ファイフ襲撃）
第12回	第五幕（1） パーナムの森の進撃と女から生まれなかったもの
第13回	第五幕（2） マクベス夫人の死
第14回	第五幕（3） マクベスの死
第15回	まとめ
第16回	筆記試験

**到達目標**

「文学作品を読む」という行為を自ら行えるように、読みの訓練を行う。歴史的背景や文化的背景を知ること、「ことば」をコンテキストに即して読むことの重要性を学ぶ。さらにイメージリーや修辞法についての基本的な知識を身につける。

**履修上の注意**

講義科目ではあるが、文学作品の読み方を身につけ、自分で読むという意味では、実習科目である。座って板書を書き写していればよいというものではない。履修するものは速やかに翻訳を購入し、第2回目の授業時までには読み終わっておくこと。遅刻は受講態度においてマイナスとなる。

**予習復習**

あらかじめ自分で読み、授業で学んだことを活かして再読し、次の場面を読み続ける。これが予習と復習である。また必ず授業前に音読してくること。その際に読めない漢字、意味のわからない言葉の意味は調べておくこと。これを行っていないと判断した時には、出席扱いとはしない。

**評価方法**

予習復習の程度、授業への参加度、随時課すレポートを受講態度として点数化し、筆記による定期試験の結果と合わせて評価する

学期末試験 70% 受講態度 30%

**テキスト**

翻訳『マクベス』

出版社、翻訳者は問わない（ちくま文庫、角川文庫、岩波文庫、光文社文庫が入手しやすい）。各自で購入すること。書店にない場合、発注すると時間がかかるので、他の書店をめぐること。複数の翻訳を購入して読み比べることを強く勧める。原典の必要箇所は配布する。